

○先生方、お変わりありませんか？我が家は、有難い事に家族全員、元気に過ごしています。

Aは自転車に乗れるようになり、自転車で風をきる楽しさを知りました。長女とまだまだ危ういAが自転車で走る後を、私が走って追いかけています。3月から自粛生活が始まり、感染対策への意識も個人差が大きく、これまで子供達が継続して積み上げてきたものを諦めざるを得ない事が多々あったり、もやもやする事もあります。その一方で、長女の夕方の習い事が無くなり、時間に追われる事なくゆったり子供達と一緒に風呂に浸かり、一緒にご飯を作り、一緒にご飯を食べ、一緒に布団に入るという末就学の頃のような生活になり、子供達は布団の中で満面の笑みで「幸せ～」と言って眠るようになりました。忙しい毎日で忘れていた幸せを感じ、園長先生と歌った「小さな幸せ」を思い出し、小さな幸せの大きさを感じています。小学生の長女の勉強を家庭で進めていく事になり、家庭教師のような時間が増えました。Aは毎日、私の家事をお仕事として、家事のお仕事を書いたカードを作り、そのカードの中から何をするかはその日の気分でAに決めてもらっています。お天気の良い日は、バルコニーをデッキブラシでお掃除したり、スペシャルカードが入ります。お米を研ぎ炊飯器のスイッチを押した時、お皿洗いをして水切りざるにきっちり並んだお皿を見た時、とても満足げです。今週は、靴紐のあるスニーカーに靴紐を通して、リボン結びをしました。難しいかなと思っていたのですが、Aにとって交互に下から上に紐を通す子供は容易い事だったので、靴紐を通すのが「お裁縫みたいで楽しい」とすいすいこなしていました。Aの成長の中で、心配しているというか、どうなるだろう？と思っている事があります。長女のA組の時に、毎日リレーの朝練で稲垣先生の「遠慮しないで！」という激がとぶ中、肩がぶつかり合いながらもひるまず、切磋琢磨し、運動会で見た事のない必死な形相で走るA組さん達を見て、我が子だけでなく、Aさんみんなの顔を見て、その成長に目頭が熱くなりました。卒園時の「お母さんの敏感期」で、数名の卒園児のお母様方が、「小学校に入学、その後の人生で色々な事がころころうけど、聖母幼稚園での築いて貰った人としての基礎があったら、道に迷う事もあると思うけれど、大丈夫だと思っています。」という言葉は、3年経った今でもしっかりと私の心にあります。A組での一年は、幼稚園の3年間だけではなく、その後の人生の中でも無くてはならないものだと思っています。この状況でどうしようもない事とは分かっていますが、大事なA組での一年はしっかりと経験してから…という思いです。

○長女は3月初旬から休校になり、しばらくしてから、オンライン授業に切り替わっていきました。それから在宅の量も減らして下2人も家で見る事を選択したのですが、授業を受けさせないと、集中できる環境を作らないと、正しい生活リズムを保たないと、外で体を動かさせないと、この、「ちゃんとさせないと」が自分を苦しめていました。自分自身も、オンライン授業への変化、習い事もオンラインへ変更、等慣れない事が続いていた中で、長女的生活リズムと下2人のリズムに翻弄し、親の勝手なタイムテーブルに押し込もうとし、出来ない毎日にイライラ、変化した生活に慣れる事でいっぱいだった日々でした。そんな反面、こんな状況で心が疲弊していくよりも、（もちろん勉強も大事なのはわかっているけど）子供達が笑ったり泣いたりしながら楽しんで遊んでいるだけではダメなの？それも学びでは？いや！学校の先生方も子供達の事を考えてされている事なんだから、親として導かないと！という葛藤の中でモヤモヤしながら、バランスをとるのに随分苦労しました。5月に入ってやっと、全員でそれぞれやる事、やりたい事をする生活に慣れてきました。午前中は下2人と庭いじりや外遊び、その間長女は制服に着替え、授業をし、午後は下2人にはDVDを見てもらって、静かな間に勉強に集中できる環境をできるだけ整えつつ、私は家事やできる範囲で仕事をし、（毎日うまくはいかないですが、）授業が終わる2時半頃からおやつをみんなで食べ、外遊びをしたり、ごっこ遊びをします。この休みの間、親と子の関係を！や、させないといけない事を！と必死になりすぎて頭がパンクしそうでしたが、分かち合いや、このお手紙を書く事で自分を見つめる機会になりました。この、ふっと立ち止まる時間がいかに大切なのか再確認しました。また、自分の今日できていない事に目がいきがちで、これだけできたんだから！と自分を認めて許していく事が、子供達にも同じく大事な事なんだと反省しました。そして、大変だけどそれぞれが成長できているな、と感じます。長女は私が疲れていると、手紙をくれます。`お母さん、いつもありがとう。がっばって！、`こんどデート行こうね、手作りチケットをくれた事もあります。`肩たたきけん、`お笑いライブけん、（もちろん出演、演出 byM）手紙をもらって、申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。自分だけが苦しいと思っていた私は何てダメなんだ、環境が変わって1人で何時間もパソコンに向かって、どれだけ頑張っているんだ。そんな中で自分に何が出来るか考えて手紙をくれた娘の優しさに成長を感じました。そして、家の前の空き地の土を掘ってタイルの破片や綺麗な石を見つけて並べたり、石同士をぶつけて武器を作ったり（何と戦うのか?!）自分の探究心に対しての集中力は本当にアツパレです。長男は気づけば朱肉でほっぺを真っ赤にして、`お母さんの真似、`と可愛い事をしてみたり、`オレが地球をまもるー！、`と近所

迷惑になるぐらいの声のボリュームで叫んで男気？を出してみたり、笑。はたまたプリンセスのドレスを着て満面の笑みでクルクルまわって、`おどろきましょう！`と言ってみたり、笑。いつも家族中を笑顔にしてくれます。次女は総じてしっかりしました。甘える事ももちろんありますが、自分で服を選び、着替え、歯磨きも顔を洗う事もできるようになりました。何より子供達との関係、絆がすごく強くなりました。普段だと、休みの日は習い事が買い物で、ゆつくり3人で遊ぶ事が少なかったのですが、鬼ごっこやかくれんぼ、ごっこ遊びも末っ子も楽しそうにできるようになりました。そして、ケンカをして誰かが大声で怒っていても、泣いてもすぐに私が入らず（大らかな見守りばかりではなく、疲れ果てて放置も多々あり、）いる事で、3人で解決する力がつきました。大変な今、今までには得なかった事に気づけるか、自分ばかりの事を考えていないか、乗り越える為に何が出来るか、神様に本当の人間力を試されているように思う日々です。

○3月に休園になってしばらくしてから、主人の会社も基本在宅勤務になり、それまでAと2人で過ごしていた平日から4人で過ごす毎日になりました。はじめはそのことがそれぞれのストレスとなり、苦しかったことを覚えています。子どもたちは毎日のようにどの公園に行くかで意見が割れ、ケンカになっていました。家にいる時間も、はじめは持ち帰ったお仕事の続きをしたり、絵の具を2人でしたり、お菓子作りやスライムやプラバン作り…と私が提案して遊んでいましたが、そのうちRが「やりたくない」と言うようになりました。だからといって他に何かしたいことがある訳でもなく、「暇」と、遊びの提案に対しての「やりたくない」の繰り返しで、主人と2人で叱りつけてしまったこともありました。私も、家でできることの限界を感じていました。自粛生活に慣れてきた頃、Rが、捨てようと思っ  
てまとめておいたダンボールを見つけ、自分の部屋にこもり出しました。長い時間をかけて完成させたのは、大好きなぬいぐるみ用のアスレチックで、滑り台やブランコを工夫して作っていました。私は、この休園、休校生活を充実させるのも無駄に過ごすのも親次第だと思い、子どもに与えることばかり考え、ひとり焦っていました。でも、子どもには子どものペースがあり、時間はかかっても自分でやりたいことを見つけていける、そして親はそれを信じて見守ることが大事だと改めて感じました。幼稚園で3年間、見守ることの大切さを学んできたはずなのに…と成長していない自分にショックを受け、また、見守ることの難しさを痛感しました。

Aは工作に関しては「ママがやって」ということが多いですが、Rがやっていることは同じようにしたがるので、一緒にダンボールの部屋を作ったり、廃材でおもちゃを作ったりして遊ぶことが増えました。そんな時は、長い時間夢中になって遊び、2人ともとても良い表情をしています。Aはもうすぐ幼稚園という時に休園になり、姉や父親が家にいるなど周りの変化はあるものの本人自身は入園前と変わらず家で過ごす生活です。朝は私が洗い物や洗濯干しなどをしながらRの宿題やピアノの練習を見ているので忙しく、「ママ遊ぼうよ」と言っていますが全然遊んでやる事ができず、少々可哀想な思いをさせています。同室で宿題と遊びをするとAは邪魔をし、Rは集中できないので難しいところです。Aは末っ子男子で私がつい甘やかしてしまうことと、自立したい気持ちがあまり強くないようなので、幼稚園生活が始まるにしても大丈夫かなと思う部分があつきました。その中でも特に心配なのが食事で、好き嫌いがとても激しく野菜や肉、魚はほとんど食べません。また、お箸も半年ほど前から用意しているのですが、トレーニング箸やスプーンやフォークしか使わない日々が続いていました。でも最近になって、少し鶏肉を食べるようになり、にぎり箸ですがご飯だけはお箸を使えるようになりました。頑なに肉を食べることや箸を使うことを嫌がっていた息子が一歩前進したきっかけとなったことは、私の「頑張ってお肉を食べたら(お箸を使えたら)高橋先生と宇野先生に言っておくね！」の言葉です。先生の名前を出した途端、表情が変わっていました。準備保育、入園式、日差登園と3日合わせても数時間しか担任の先生と一緒にいられませんでした。先生のごことが大好きになったようです。お手紙を頂いたことも電話で話せたこともとても嬉しかったようで、離れていても心をしっかり繋いでくださった先生方には大変感謝しています。(息子と約束したのでこちらで報告させていただきます。高橋先生、宇野先生。Aは頑張ってお肉を食べました！お箸も頑張ってお練習しています！)今はこの生活にも慣れ、色々なことがありながらも毎日が過ぎていきます。私の中でもこの数ヶ月で変化がありました。私は、娘が幼稚園に通っていた3年間、短所に目が行きがちで、他のお子さんと比べては落ち込んだり苛立ったりがよくありました。娘には申し訳ないことをしました。でも、2ヶ月半我が子だけと向き合う中で、比較することなく子どもの良い面も見えてきました。また、オンライン学習など様々なことに取り組んでおられるご家庭の話を聞いて「うちはうちのやり方でいい」と思えるようになりました。これまでの自分であつたら、そのような話を聞くと「うちの子にも何かさせた方がいいのではないか」と焦っていたと思います。でも、それがなくなりました。落ち込んだり悩んだりするより、心の健康が家族の安定に繋がると感じました。今は、子ども達は虫捕りにはまっています。捕まえたチョウの種類を調べたり、持ち帰ったテントウムシの産卵の瞬間を見ることができ、喜んだりしています。事態が落ち着き、また学校や幼稚園に通える日が来るまで、好きなことや夢中に

なれることを見つけ、心が満たされ、パワーを溜められたら良いと思っています。この長い自粛生活で失うものばかりでなく、得るものもたくさんあったと実感しています。～(略)～

(園長より)

今日のお母様方は、上のお子さんがすでに卒園されたお母様方です。兄弟で在園してくださっていると、小学校のご様子、最近は中学生になられたご様子を伺う機会があり、この教育が、卒園後どのように生きてくるのか、私はこの10年大きな学びを頂いています。卒園してもずっとつながってくださっている卒園児のお母様方には、感謝の気持ちでいっぱいです。そして、卒園していった子どもたち、その育ちこそが、園の宝物、モンテッソーリ教育の宝物だと思っています。今回のお母様方は、子どものペースがあることを知っておられ、そのことをこの機会にも使って生活をされていますね。いろんな思いや葛藤があったとしても、子ども自身の歩むペースや自由な発想に気付き、子どもと生活していく楽しさ？喜び？を感じておられるように思います。そして、自分の子どもの良さや成長にも気付くことができる心の余裕があると思います。そんなお母様方が聖母幼稚園にはたくさんおられます。これもまた、園の宝物です。